
編集後記

定年を目前にして、医療に携わった頃と比較して、現在の患者さんの平均寿命は10年も伸びました。長寿が喜ばれた高度成長期が懐かしく思いだされます。今は高齢者医療・介護費用を下支えしている健保組合の過半数が赤字で、医療・介護財源が払底しました。が、有効な手立ては無く、暗中模索が続いています。

2015年はTPP（環太平洋連携協定, transpacific partnership）で開け暮れました。プラザ合意の頃を思い出しました。医療を含めてサービス業も大変な時代になると思います。日本は島国なのか、時代の節目に黒船に屈する憂き目に会うようです。戦後、景気は猫の目のごとく「高度経済成長期（オリンピック景気）—石油ショック—バブル—デフレ不況—実感の無い景気回復」と目まぐるしく乱高下しました。学生時代に石油ショックを経験しもうダメだろうと思いながらも原子力発電へ期待したのも昔となりました。次期東京オリンピックでまた戦後の振り出しに戻るのでしょうか？

日本が戦後の高度成長・大量生産に沸いた頃に斜陽となった米国の悲哀を現在感じます。ミクロな観点から見ると、どのようにすればこのような閉塞感から脱出できるのでしょうか？私事ですが、小さな施設の責任者を任された20年前のことを思い出します。厚生連組織内での過去の確執を取り除いて業務統合する目的で村上病院長に謝罪に伺った折、「業務を任せてもいいけど何か良いことはあるの？」と質問されました。今では人口に膾炙された「only one」を指摘されたのだと承り、当時は珍しかったインターネット診断書閲覧システム、手術時遠隔迅速病理診断、並びに、遺伝子診断の導入となりました。窮地に立った時に、身の丈にあった最大限の知恵を働かせて差別化を図ることが生き残る術ではないかと思いました。その為にも顧客満足のヒントを企画化する能力を高めることが重要で、改めて、広報誌である厚生連医誌の役割の有用性を再認識しました。

JA新潟県厚生連医誌の内容をインターネット上で読めるようにしました。本誌は、31年前の1984年に創刊され、2015年度に24巻となりました。現在ホームページ上での全論文の公開となっております。インターネット上での抄録掲載または単文掲載はしばしば目にいたしますが、学会雑誌の全論文掲載の前例は無いと思います。今後、本誌掲載文献が引用されていくことを希望しております。以下に、(A) 厚生連医誌の検索方法と、(B) 既刊発表論文の目次を掲載しました：

A. 厚生連医誌の検索方法：

1. JA新潟県厚生連本部のホームページを開く。

または、旧病理センターのホームページ (<http://www.nkp-center.jp/>) を開く。

2. トップページサブリンク先「新潟県厚生連医誌」を選択して、厚生連医誌既刊全内容の目次一覧を開いて検索する（掲載内容は、Excel形式で、筆頭著者名、題名、西暦、巻、号、頁が表示されています）。
3. 読みたい論文が決まったら、リンクボタン「論文を読む」または、直接 <http://www.janiigata.sakura.ne.jp/JMNK/jmnk.htm> を開いて、希望の論文を確認する。

B. 既刊発表論文一覧目次

(文責、五十嵐俊彦)